

2018年3月期決算説明会

日本通運株式会社

I. 経営状況		IV. 2019年3月期の業績予想	
A. 2018年3月期決算の概要	P. 1	A. 連結業績予想	P. 12
B. 直近5年間の売上高、営業利益の推移	P. 2	B. セグメント別状況	P. 13 -
C. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益の推移	P. 3	C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）	P. 16 -
D. 財政状態	P. 4	D. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳（予想）	P. 18
E. キャッシュ・フローの状況	P. 4	E. 2019年3月期予想数値の考え方	P. 19
II. 外部環境の変化およびその他の変動要素		V. 経営計画の進捗状況	
A. 増減要素	P. 5 -	A. 日通グループ経営計画2018 -新・世界日通。-	P. 20
B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳	P. 7	B. 重点戦略の進捗状況	P. 21
III. 2018年3月期業績分析		C. 数値目標の進捗状況	P. 22
A. セグメント別状況	P. 8 -	VI. 配当の状況	
			P. 23

2018年4月27日

I. 経営状況

A. 2018年3月期決算の概要

1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2018/3期 実績 ①	2017/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②x100	通期予想 (3月30日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	達成率 ⑦=①÷⑤ x100
売上高	19,953	18,643	1,310	7.0	19,800	153	100.8
営業利益	702	574	128	22.4	700	2	100.4
経常利益	743	638	105	16.6	730	13	101.9
親会社株主に 帰属する 当期純利益	65	364	△299	△82.1	10	55	653.4

2) 特別損失・特別利益の計上

（億円未満切捨て）

- ・特別損失（のれん及び固定資産の減損損失）

株式会社ワンビシアーカイブズ

△445億円

日通ロジスティクスタイランド株式会社

△71億円

- ・特別利益（政策保有株式の売却及び退職給付信託への拠出）※税負担控除後

+148億円

3) 連結経営指標

（前期実績）

- ・売上高営業利益率

3.5% (3.1%)

- ・売上高経常利益率

3.7% (3.4%)

- ・ROE

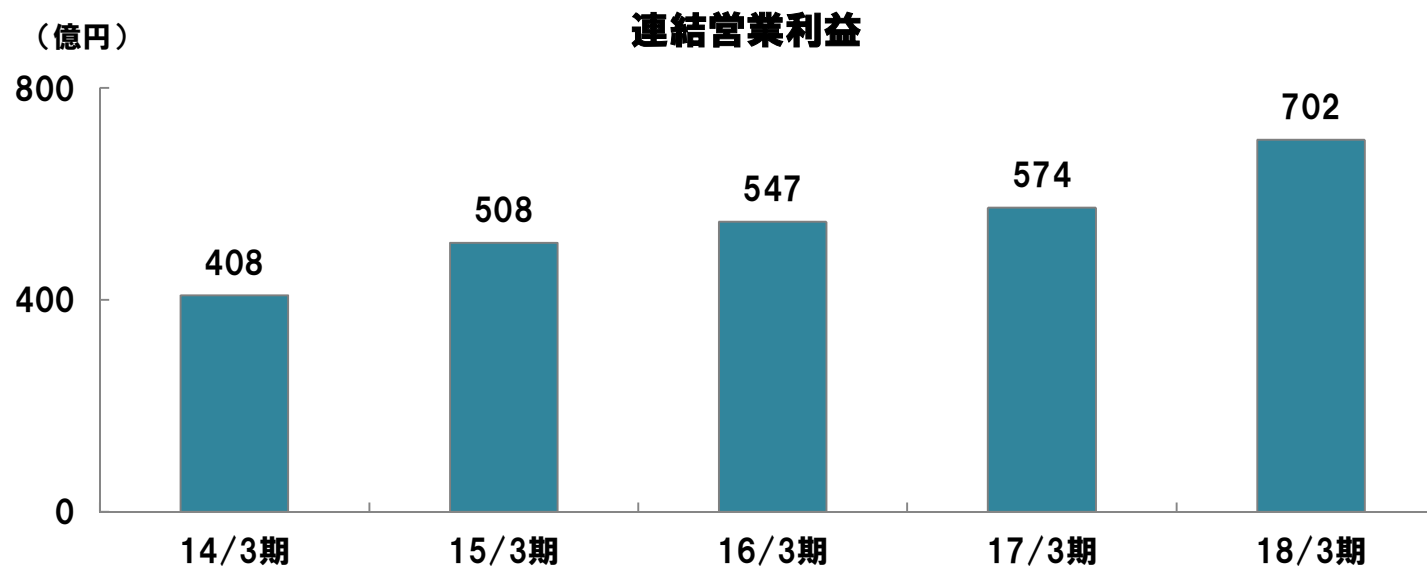
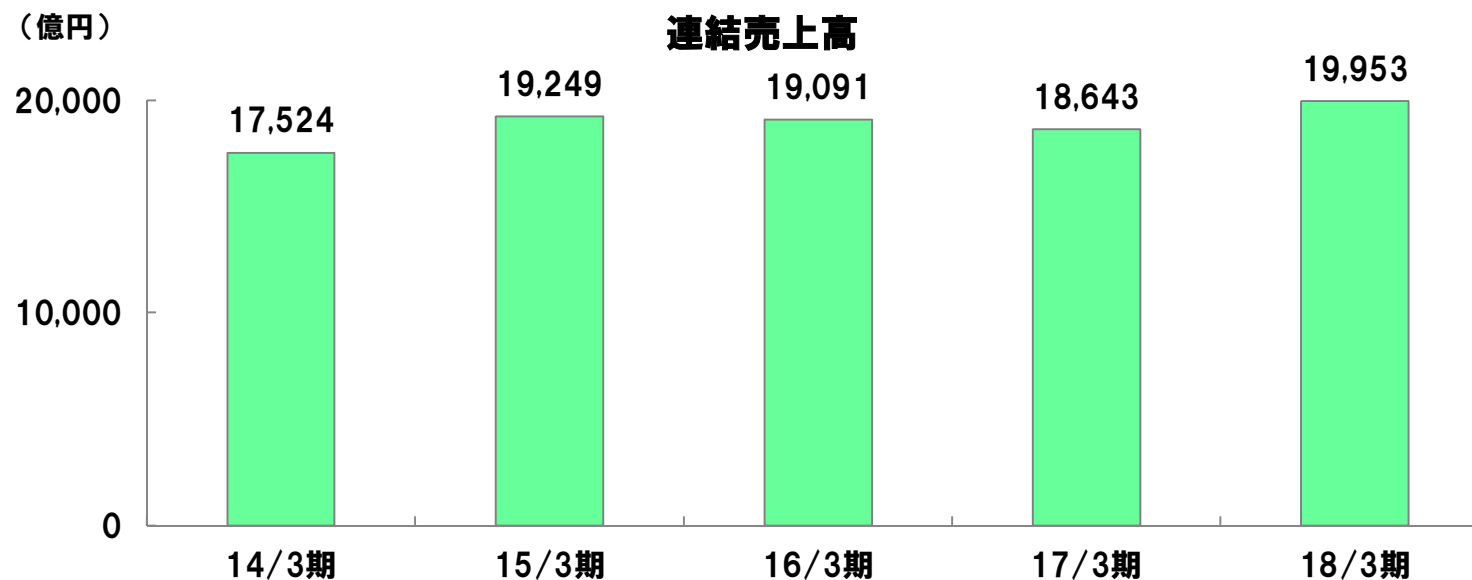
1.2% (6.9%)

- ・ROA

0.4% (2.4%)

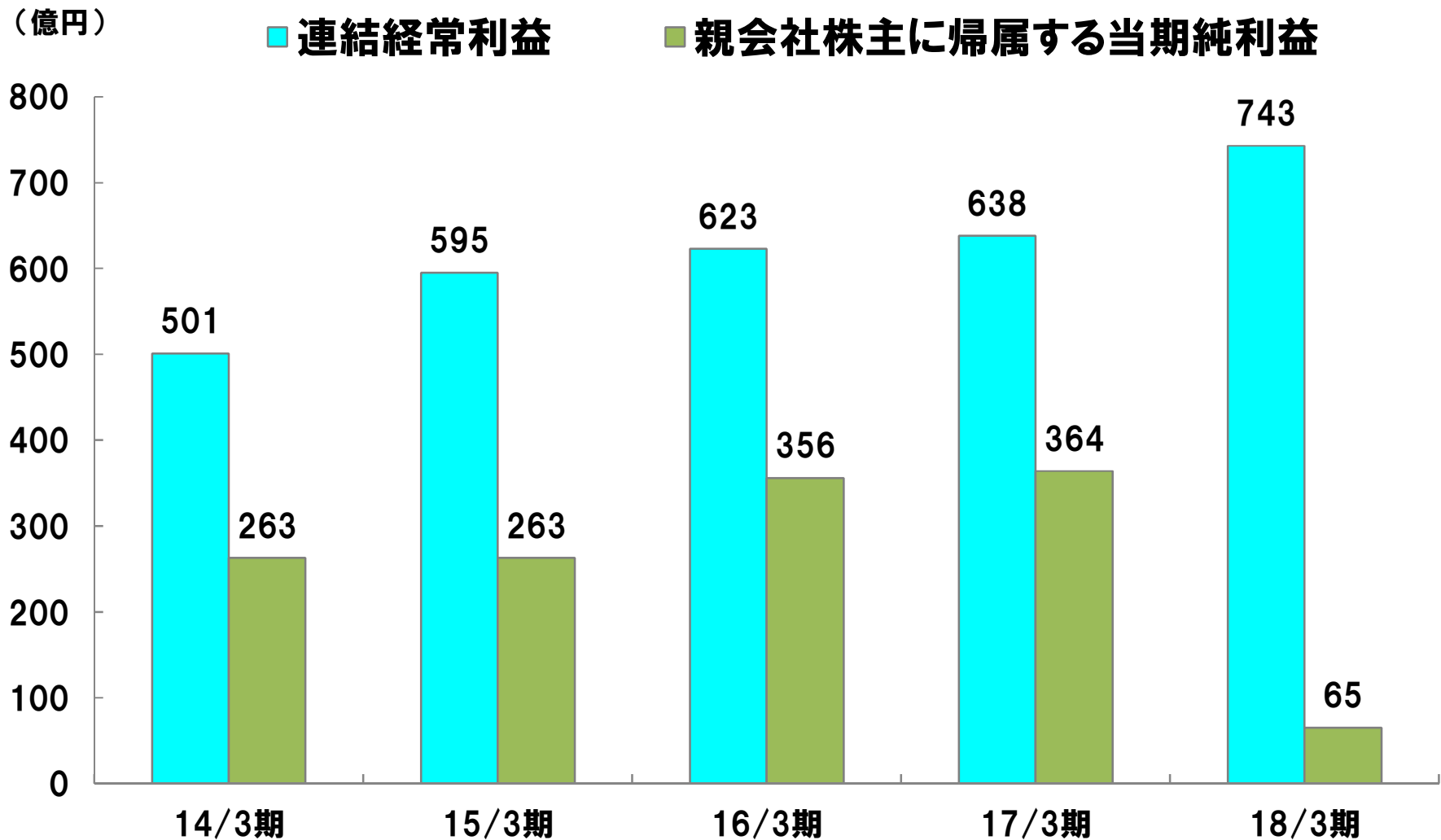
I. 経営状況

B. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



I. 経営状況

C. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益の推移



I. 経営状況

D. 財政状態

(単位：億円、%)

	2018/3期末	2017/3期末	増減額
総資産	15,180	15,218	△37
自己資本	5,298	5,363	△65
自己資本比率	34.9	35.2	—

E. キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2018/3期	2017/3期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	918	1,023	△104
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△874	△709	△164
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	44	313	△269
財務活動によるキャッシュ・フロー	△314	△118	△196
現金及び現金同等物の期末残高	1,378	1,633	△254

II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響 (通期)	参考
燃油費単価変動 による影響	<p>+ 22.4 億円 (費用増)</p> <p>※ 4Q単四半期 + 4.6 億円 (費用増)</p>	<p>(前年同期)</p> <p>軽油 : 90.66円/ℓ (79.87円) ガソリン : 124.38円/ℓ (113.79円) 船舶重油 : 44.29円/ℓ (36.10円)</p>
為替による影響	<p>売上高 + 123.4 億円</p> <p>営業利益 + 4.5 億円</p> <p>※ 4Q単四半期 売上高 + 64.4 億円 営業利益 + 2.1 億円</p>	<p>年間平均為替レート (前年同期)</p> <p>USD : 112.19円 (108.84円) EUR : 126.67円 (120.33円) HKD : 14.40円 (14.02円) RMB : 16.63円 (16.37円)</p> <p>「年間平均為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。</p>

II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

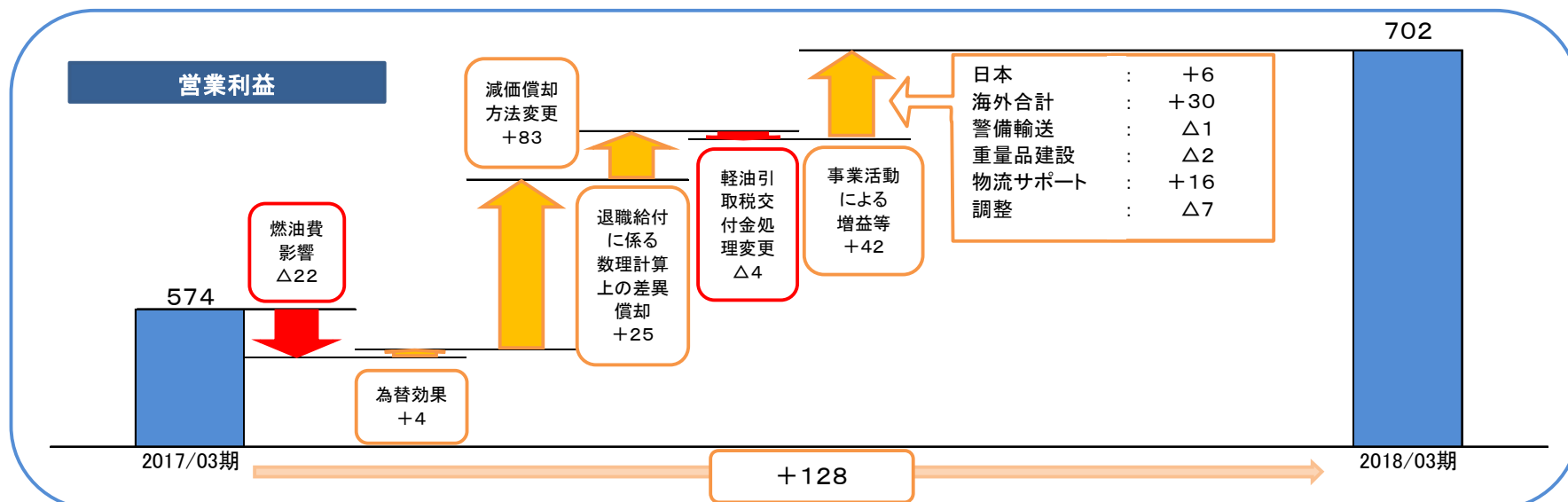
A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響 (通期)	参考																				
有形固定資産の 減価償却方法 および耐用年数 変更による影響 (※従来の方法に よった場合と比較した 影響額)	営業利益 + 83.0億円 ※4Q単四半期 + 26.4億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">(通期)</th> <th style="text-align: center;">(4Q単四半期)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;">日本</td> <td style="width: 10%;">:</td> <td style="text-align: right;">+ 66.3億円</td> <td style="text-align: right;">+ 21.3億円</td> </tr> <tr> <td>警備輸送</td> <td>:</td> <td style="text-align: right;">+ 8.3億円</td> <td style="text-align: right;">+ 2.5億円</td> </tr> <tr> <td>重量品建設</td> <td>:</td> <td style="text-align: right;">+ 3.4億円</td> <td style="text-align: right;">+ 0.9億円</td> </tr> <tr> <td>物流サポート</td> <td>:</td> <td style="text-align: right;">+ 4.9億円</td> <td style="text-align: right;">+ 1.5億円</td> </tr> </tbody> </table>			(通期)	(4Q単四半期)	日本	:	+ 66.3億円	+ 21.3億円	警備輸送	:	+ 8.3億円	+ 2.5億円	重量品建設	:	+ 3.4億円	+ 0.9億円	物流サポート	:	+ 4.9億円	+ 1.5億円
		(通期)	(4Q単四半期)																			
日本	:	+ 66.3億円	+ 21.3億円																			
警備輸送	:	+ 8.3億円	+ 2.5億円																			
重量品建設	:	+ 3.4億円	+ 0.9億円																			
物流サポート	:	+ 4.9億円	+ 1.5億円																			
退職給付に係る 数理計算上の差異 償却による影響	営業利益 + 25.4億円 ※4Q単四半期 + 6.3億円																					
軽油引取税交付金 の経理処理変更による影響	営業利益 △ 4.9億円 ※4Q単四半期 △ 11.3億円	物流サポート																				

II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳

(単位：億円)



III. 2018年3月期業績分析

A. セグメント別状況

1) 日本

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	12,034	11,557	477	4.1	11,914	101.0	120
	セグメント利益	459	386	73	18.9	450	102.2	9
4Q単四半期	売上高	3,084	2,917	166	5.7	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	130	107	22	20.5	4.2 (3.7)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道輸送では、自動車関連部品の取扱いが増加したが、悪天候による運休本数が増加。 ・トラック輸送は、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調に推移。 ・海運では、機械関連部品や自動車の設備輸送の輸出、アパレル関係の輸入が堅調。 ・航空では、欧州を筆頭に、各方面向けに自動車関連部品が好調に推移し、北・中米向けの機械部品やアジア向けの電子部品等の荷動きも堅調。 						

2) 米州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	913	838	75	9.0	939	97.3	△25
	セグメント利益	44	47	△2	△6.0	49	91.6	△4
4Q単四半期	売上高	238	222	15	7.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	12	△3	△30.6	3.5 (5.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収・減益。 ・前年の航空輸出増大の反動により、航空輸出が減少。海運輸出入、倉庫配送業務、自動車運送は、堅調に推移。 ・航空利用費やトラックの外注費が、高騰。 						

III. 2018年3月期業績分析

A. セグメント別状況

3) 欧州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	960	792	167	21.1	1,001	96.0	△40
	セグメント利益	41	20	21	104.6	44	94.4	△2
4Q単四半期	売上高	288	217	70	32.6	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	6	6	92.1	4.6 (3.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収・増益。 ・航空輸出が昨年の不調を脱し、航空輸入も自動車関連や電子部品の取扱いが増加。 ・オランダにおける倉庫配送業務も、堅調に推移。 ・イタリアでは、ハイファツションの取扱い増により、航空輸出が堅調に推移。フランスで非日系顧客の取扱い拡大。 						

4) 東アジア

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	1,174	1,017	157	15.5	1,171	100.3	3
	セグメント利益	18	11	7	65.2	18	102.5	0
4Q単四半期	売上高	324	310	13	4.5	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	2	2	81.1	1.7 (1.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいては、減収・増益。 ・香港での倉庫配送業務は減収となったが、全域で、自動車関連、医療機器、電子部品等の取扱い増により、航空輸出入、海運輸出入が堅調に推移。 ・中国における航空チャーター便規制の延長に伴う、航空利用費の高騰が継続。 						

III. 2018年3月期業績分析

A. セグメント別状況

5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	853	703	150	21.4	862	99.1	△8
	セグメント利益	33	24	9	36.6	35	97.0	△1
4Q単四半期	売上高	231	189	42	22.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	7	6	0	12.5	3.0 (3.3)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収・増益。 ・地域全体で、各取扱いが堅調に推移。 ・非日系顧客の医薬品や電子部品関連、自動車関連の航空輸出が好調。 ・一部の国では、利用費や下請費が高騰。 						

6) 警備輸送

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	572	547	24	4.5	573	99.9	△0
	セグメント利益	17	9	7	82.6	18	97.9	△0
4Q単四半期	売上高	142	136	5	4.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	3	1	43.3	3.0 (2.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みを推進。 						

III. 2018年3月期業績分析

A. セグメント別状況

7) 重量品建設

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	476	469	6	1.3	480	99.2	△3
	セグメント利益	40	38	1	4.6	43	94.5	△2
4Q単四半期	売上高	96	117	△20	△17.7	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	11	△7	△59.6	4.9 (10.0)		
	概況	・前年にあった海外の大型プラント工事の反動減により、減収・減益。						

8) 物流サポート

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	4,432	4,039	392	9.7	4,360	101.7	72
	セグメント利益	117	100	17	17.0	117	100.2	0
4Q単四半期	売上高	1,232	1,113	119	10.7	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	35	45	△10	△23.0	2.8 (4.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上高が増加。 ・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業が、堅調に推移。 						

(日通商事、日通総合研究所、日通キャピタル、日通不動産ほか)

IV. 2019年3月期の業績予想

A. 連結業績予想

(単位：億円、%)

	2019/3期予想			2018/3期実績			増減額 (増減率)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	10,100	10,700	20,800	9,561	10,391	19,953	538 (5.6)	308 (3.0)	846 (4.2)
営業利益	330	440	770	322	380	702	7 (2.4)	59 (15.7)	67 (9.6)
経常利益	350	460	810	344	399	743	5 (1.5)	60 (15.3)	66 (8.9)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	220	230	450	215	△150	65	4 (2.0)	380 (-)	384 (588.7)

IV. 2019年3月期の業績予想

B. セグメント別状況

(単位：億円、%)

	項目	通期			上期			下期		
		2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)
日本	売上高	12,245	11,888	356 (3.0)	5,990	5,770	219 (3.8)	6,255	6,118	136 (2.2)
	営業利益	516	456	59 (13.1)	219	199	19 (10.0)	297	257	39 (15.5)
	利益率	4.2	3.8	-	3.7	3.4	-	4.7	4.2	-
	見通し概況	・航空・輸出フォワーディングが、引き続き、アジア向けを中心に堅調に推移。 ・地域特性に適応した事業展開、およびワンストップ営業・アカウントマネジメントのさらなる拡大、深化。								
米州	売上高	954	913	40 (4.4)	469	448	20 (4.6)	485	465	19 (4.2)
	営業利益	43	44	△1 (△4.1)	20	27	△7 (△26.1)	23	17	5 (29.4)
	利益率	4.5	4.9	-	4.3	6.0	-	4.7	3.8	-
	見通し概況	・米国-メキシコ間の自動車関連のトラック輸送の取扱いが、引き続き堅調に推移。海運輸出入・倉庫配送の荷動きが継続。								
欧州	売上高	1,124	960	163 (17.0)	551	438	112 (25.7)	573	522	50 (9.7)
	営業利益	46	41	4 (10.7)	20	17	2 (15.7)	26	24	1 (7.1)
	利益率	4.1	4.3	-	3.6	3.9	-	4.5	4.6	-
	見通し概況	・倉庫配送業務、航空・海運の輸出入フォワーディングが堅調に推移。非日系企業への営業強化が浸透。								

IV. 2019年3月期の業績予想

B. セグメント別状況

(単位：億円、%)

項目	通期			上期			下期			
	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	
東アジア	売上高	1,213	1,174	38 (3.2)	572	547	24 (4.4)	641	627	13 (2.2)
	営業利益	28	18	9 (51.7)	12	7	4 (56.1)	16	10	5 (48.6)
	利益率	2.3	1.6	-	2.1	1.4	-	2.5	1.7	-
	見通し概況	<ul style="list-style-type: none"> 中国における自動車関連の取扱いが、引き続き堅調に推移。 航空・海運フォワーディングが回復。航空利用費の高騰に対し、お客様への転嫁と混載効率の改善を図る。 								
南アジア・オセアニア	売上高	900	853	46 (5.4)	423	395	27 (7.0)	477	458	18 (4.0)
	営業利益	37	33	3 (8.9)	18	16	1 (10.2)	19	17	1 (7.8)
	利益率	4.1	4.0	-	4.3	4.1	-	4.0	3.8	-
	見通し概況	<ul style="list-style-type: none"> 倉庫配送業務が堅調に推移、航空・輸出フォワーディングの荷動きも継続。 								
警備輸送	売上高	739	718	20 (2.9)	362	359	2 (0.8)	377	359	17 (5.0)
	営業利益	15	21	△6 (△29.1)	5	10	△5 (△52.9)	10	10	△0 (△5.1)
	利益率	2.0	2.9	-	1.4	3.0	-	2.7	2.9	-
	見通し概況	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの構築を図り、地方金融機関をターゲットに、アウトソーシングの獲得に推進。 人件費等の増加が影響。 								

IV. 2019年3月期の業績予想

B. セグメント別状況

(単位：億円、%)

		通期			上期			下期		
		2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)
重量品建設	売上高	458	476	△18 (△3.8)	243	248	△5 (△2.3)	215	227	△12 (△5.4)
	営業利益	36	40	△4 (△11.4)	20	23	△3 (△14.7)	16	17	△1 (△6.8)
	利益率	7.9	8.5	-	8.2	9.4	-	7.4	7.6	-
	見通し概況	・前年上期に集中したシャットダウンメンテナンス業務が減少、海外における大型プロジェクトが見込めず。								
物流サポート	売上高	4,654	4,432	221 (5.0)	2,224	2,042	181 (8.9)	2,430	2,389	40 (1.7)
	営業利益	118	117	0 (0.7)	56	53	2 (5.1)	62	63	△1 (△3.1)
	利益率	2.5	2.6	-	2.5	2.6	-	2.6	2.7	-
	見通し概況	・日通商事におけるロジスティクス・サポート業務で、堅調な荷動きが継続。								

※警備輸送事業に関わる組織改正の実施にあわせて、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更いたしました。これに伴い、本見通しについては、前年度の数値をセグメント変更後の数値に組み替えて比較しております。
 (変更セグメント:日本、警備輸送)

IV. 2019年3月期の業績予想

C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
燃油費単価変動による影響	+12.7億円 (費用増) 上期 +10.8億円 下期 + 1.9億円	(前期年間平均) 軽油 : 97.10円/ℓ (90.66円) ガソリン : 131.90円/ℓ (124.38円) 船舶重油 : 48.10円/ℓ (44.29円) ※使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 △33.4億円 営業利益 △ 0.9億円	(前期年間平均) USD : 106.90円 (112.19円) EUR : 131.40円 (126.67円) HKD : 13.60円 (14.40円) RMB : 16.90円 (16.63円) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「年間為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。</p> </div>

IV. 2019年3月期の業績予想

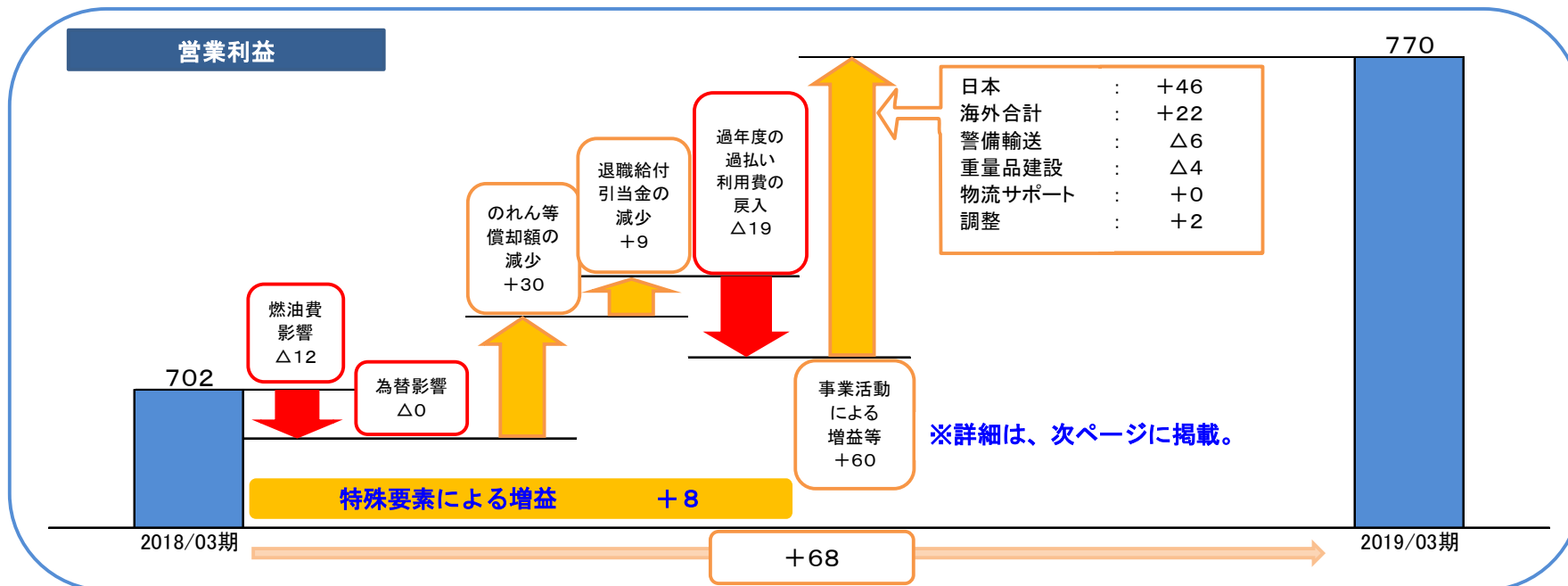
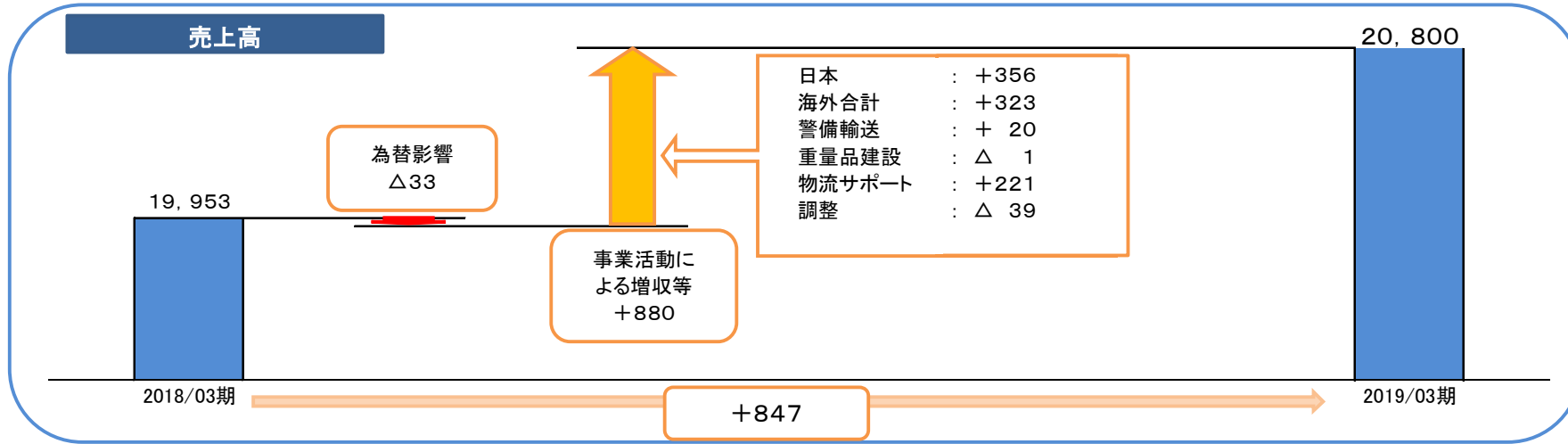
C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
のれん及び固定資産にかかる減損損失計上による影響	営業利益 +30億円	(通期) 日本 : +25億円 南アジア・オセアニア : +5億円
退職給付引当金の減少	営業利益 +9.8億円	(通期) 日本 : +7.8億円 警備輸送 : +1.7億円 重量品建設 : +0.2億円
その他の影響 (前年度特殊要素)	営業利益 △19億円 (※過年度の過払い 利用費戻し入れ)	日本 : △8億円(1Q) 米州 : △11億円(2Q)

IV. 2019年3月期の業績予想

D. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳（予想）

（単位：億円）

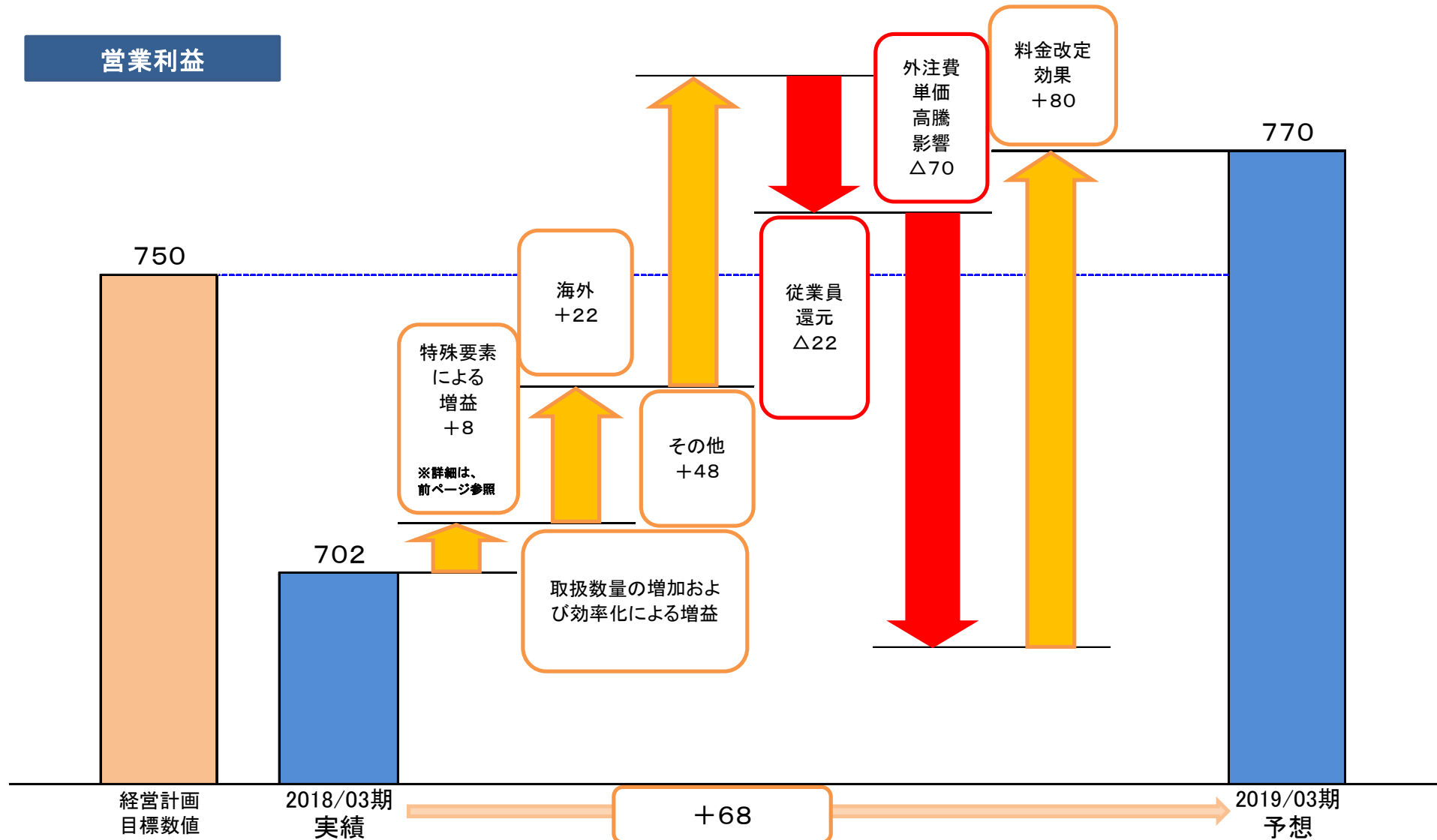


IV. 2019年3月期の業績予想

E. 2019年3月期 予想数値の考え方

(単位：億円)

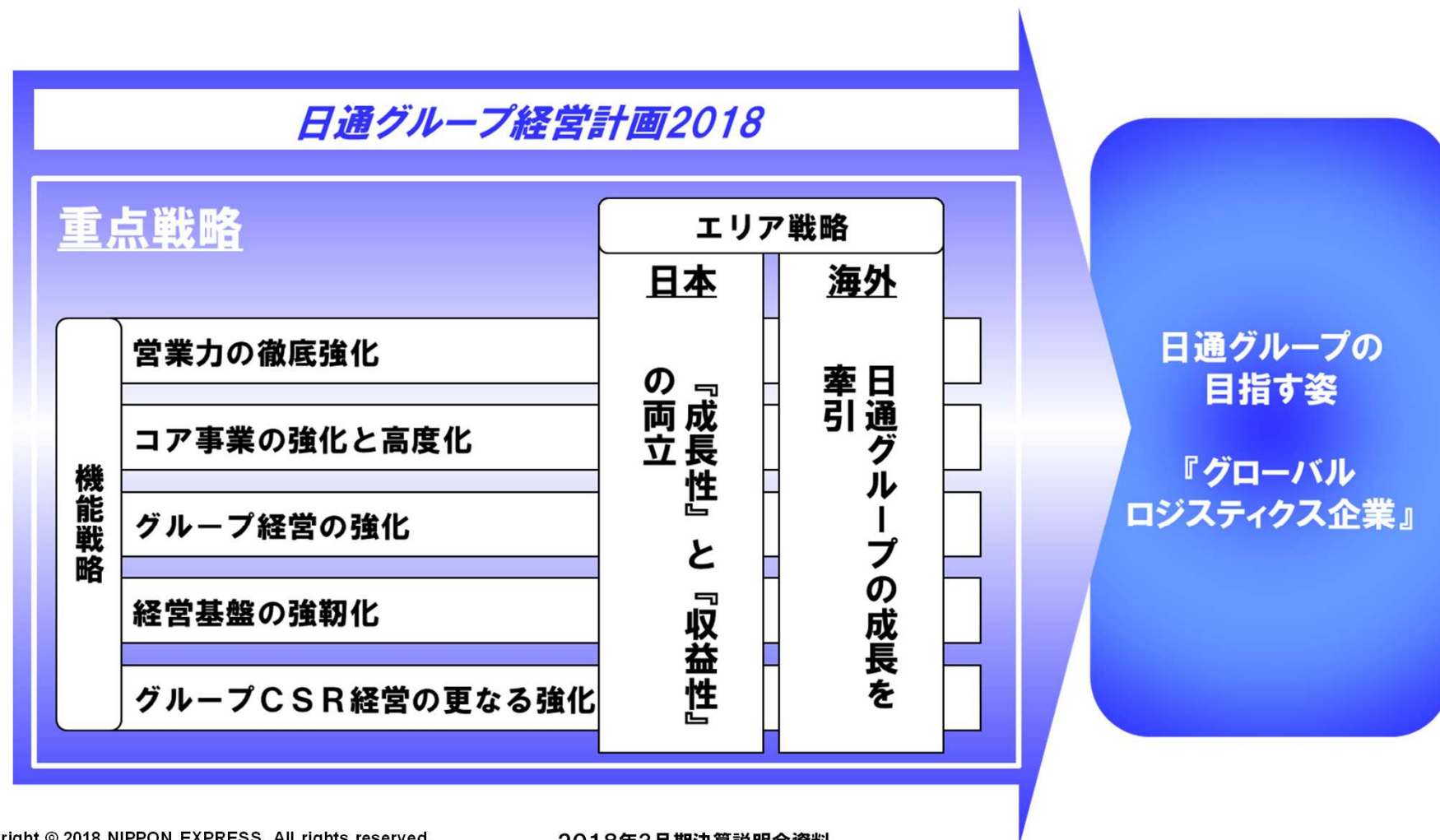
営業利益



V. 経営計画の進捗状況

A. 日通グループ経営計画2018 - 新・世界日通。 -

国内(日本)事業の収益性を更に向上させ、真のグローバルロジスティクス企業となるべく、注力する事業領域と成長地域へのBtoBに特化した集中投資を着実に実行する。



V. 経営計画の進捗状況

B. 重点戦略の進捗状況

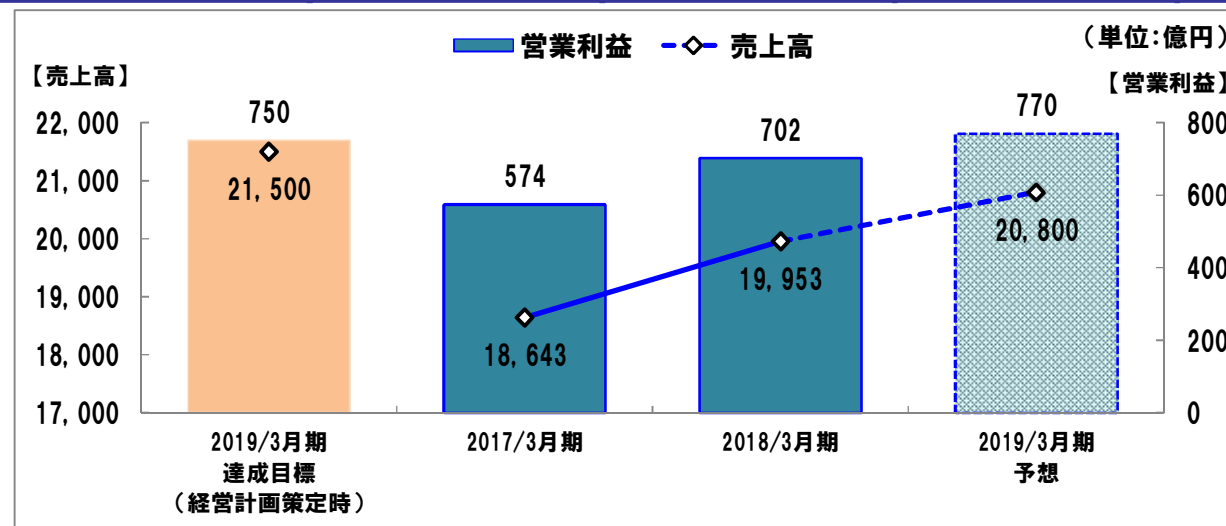
重点戦略	項目	進捗状況	
エリア戦略	日本 「成長性」と「収益性」 の両立	地域特性に適應した事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「オートモーティブ事業支店」設置 ・「九州オートモーティブロジスティクス支店」設置 ・「能美物流センター」開設 ・ビール大手4社の関西・中国－九州間の共同モーダルシフトをサポート
		国内事業の強化と新規事業軸の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「ネットワーク商品事業本部」設置 ・「NEX－NET:Sea & Rail 東京ランドブリッジWB、EB」販売開始 ・「Narita Temperature Controlled HUB」新設（＝大型冷凍・冷蔵施設） ・「TempSure Thermo ULD」に新温度帯（2℃～8℃）のサービス新設（→医療・医薬品輸送に対応可能） ・「海外展開ハイウェイ」運用開始
	海外 日通グループの成長 を牽引	米州、欧州、東アジアでの収益性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「ケニア支店」、「モロッコ支店」開設 ・米墨間物流の重要エリアであるテキサス州ラレド拠点を移転・拡充
		南アジア・オセアニアにおける成長	<ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマーに「ティラワ・ロジスティクス・センター」「ミャワディ事務所」開設 ・インドネシアに「スマランロジスティクスセンター」開設 ・インドネシアでの「食品関連」「電機・電子関連」の保税物流センターのライセンス、ハラール認証、AEO認証取得
機能戦略	営業力の徹底強化	非日系企業への営業拡大	・「グローバル・ロジスティクス・イノベーションセンター」開設
	グループ経営の強化	日通グループの企業価値向上に資するM&A	・「TraconfS.r.l.」の子会社化
	コア事業の強化と 高度化	イントラアジア圏におけるネットワーク拡充	・「南アジア・オセアニア日本通運メコン開発センター」開設
		アジア発着トラフィックの取扱い拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・「カザフスタン鉄道」との業務提携 ・「重慶SEA & RAILサービス」を新設 ・「上港集団物流有限公司」と業務提携

V. 経営計画の進捗状況

C. 数値目標の進捗状況

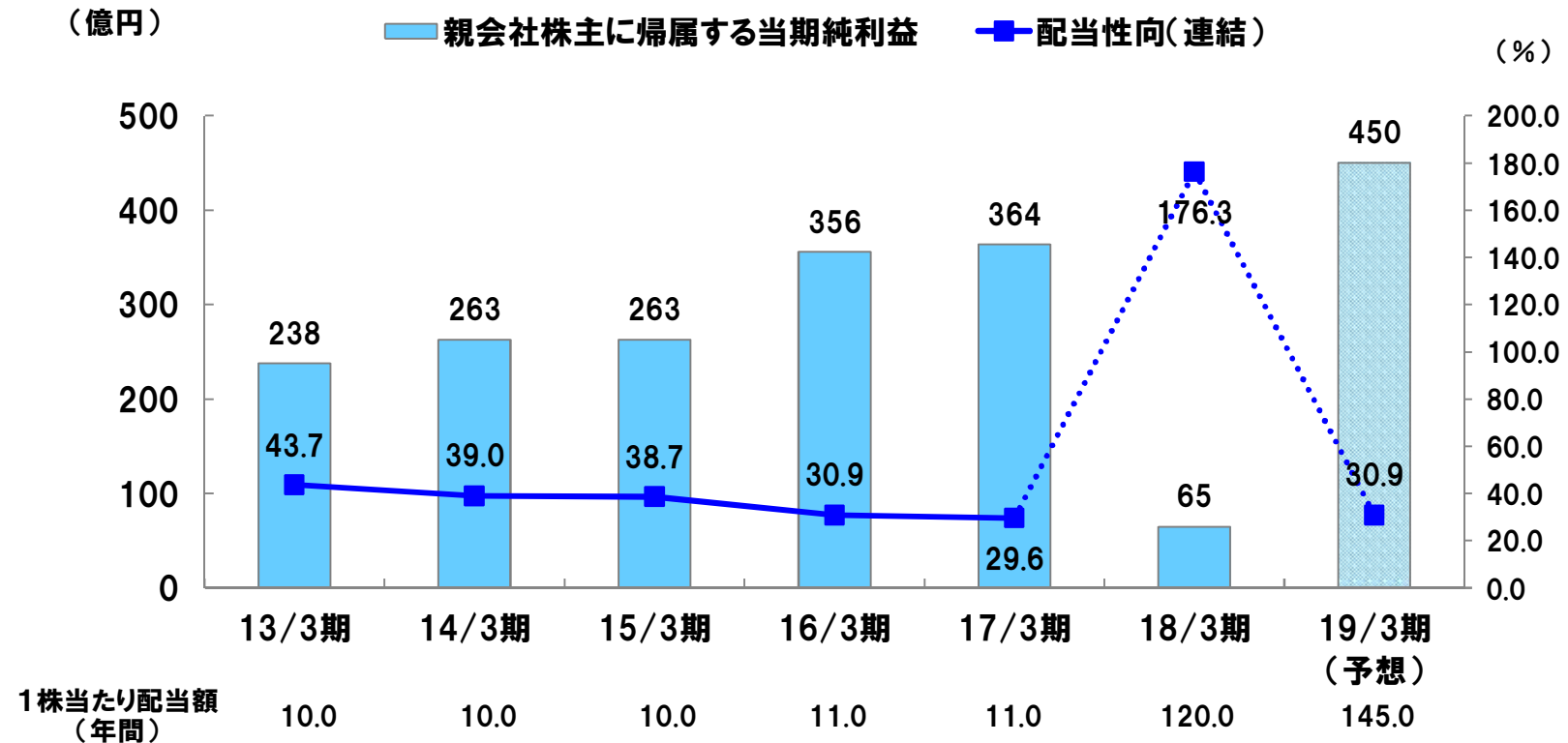
(単位:億円、%)

項目	2019/3期 達成目標	2017/3期 実績	2018/3期 実績	2019/3期 予想
売上高	21,500	18,643	19,953	20,800
営業利益	750	574	702	770
親会社株主に帰属する当期純利益	450	364	65	450
国際関連事業売上高	8,600	6,459	7,506	8,000
ROA(総資産利益率)	2.8	2.4	0.4	3.0
投資計画	2,000 (3年間の総額)	803	965	900



VI. 配当の状況

配当性向の推移と予想



※2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株に併合いたしましたので、2018年3月期以降の配当については、当該株式併合を考慮した金額で記載しております。

【資本政策の考え方】

1. 自己資本比率は、40%を目安とする。
2. 配当性向は、30~40%を目安とする。
3. 持続的な成長に向けた投資を継続するとともに、機動的な株主還元策を検討する。

We Find the Way



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。